



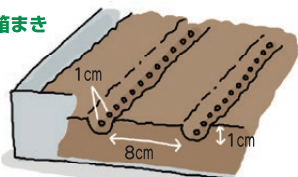
ブロッコリー栽培方法



1 1 タネまき

箱まきの場合は深さ1cmほどのU字溝を8cm間隔で作り、1粒ずつ1cm間隔でまきます。ポット（7cm前後）まきの場合、直径3cmで深さ1cmの穴を作り、3~4粒をお互いに離してまきます。覆土はタネが隠れる程度にして、たっぷり水やりをします。

●箱まき



●ポットまき



POINT 夏まきは高温対策をしっかりと！

用土は市販の野菜用用土が便利でしょう。高温対策として、夏まきでは日差しを和らげるために、箱またはポットの上を、寒冷紗あるいはよしずで覆います。冬まきでは加温・保温して育苗する必要があります。

2 2 発芽・間引きなど育苗管理

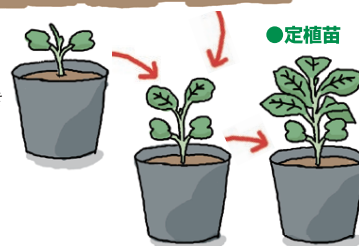
箱まきの場合、葉が混み合わないうちに適宜間引きして、本葉2枚程度になったらポットに移植します。ポットまきでは1週間ほどで2本立ちに間引きし、本葉2枚になる頃に1本立ちにします。定植が近くなったら苗を露地条件に慣れさせるため、寒冷紗をはずします。

●箱まき



●ポットまき

1~2回間引き



POINT 湿害を避ける！

水やりは朝に行いますが、過湿に弱いので夕方には表面が乾く程度にして、がっちりとした苗を育てましょう。育苗期間は夏まきが30日（本葉は5~6枚）、冬・春まきは35日（本葉4枚程度）が目安です。

3 3 定植~収穫までの栽培管理

定植の2週間以上前に苦土石灰を全面散布して深く耕し、1週間前に元肥を施します。定植は株間を40~50cmとして、深植えにならないよう株元が少し高くなるくらいに植えつけ、水やりをします。よい花蕾を取るには大きく充実した株にすることが重要です。生育状態を見ながら、速効性の液肥や追肥用の化成肥料を施します。

●2週間以上前

苦土石灰を全面散布し深く耕す



●1週間前

2.堆肥約2kgを入れる

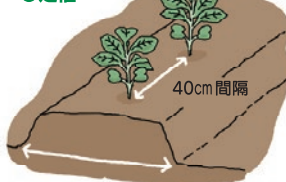
3.化成肥料を2握り(約100g)入れる

1.幅、深さとも15cmほど掘る

4.土を埋め戻す



●定植

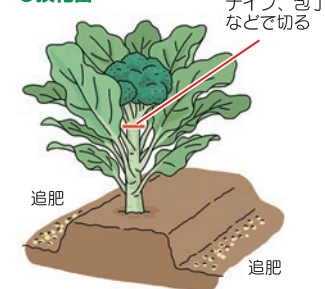


1列植えの時は株間は40cm程度

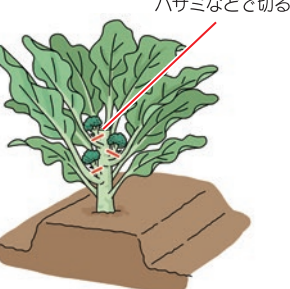
POINT 追肥を的確に！

1㎡当たり、苦土石灰は約100g、元肥は完熟堆肥約2kg、化成肥料（N:P:K=8:8:8）2握り（約100g）とします。追肥（1株あたり化成肥料1握り）は1回目は活着して生育を始める頃、2回目は花蕾が見え始める頃とし、同時に中耕と土寄せをします。

●頂花蕾



●側花蕾



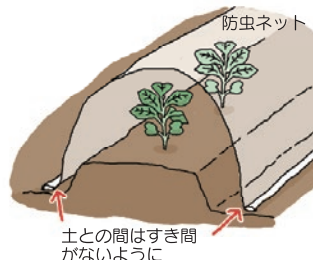
4 4 病虫害

比較的強健なので病気は少ないですが、害虫では生育前半にヨトウムシ、コナガ、アオムシなどがつきやすいので、見つけ次第捕殺するか、殺虫剤を散布します。あるいは防虫ネットをトンネル状にかけると被害を抑えることができます。

POINT

防虫ネットを上手に使う！

防虫ネットをかける時は、土との間にすき間ができないように。育苗時に立枯病が発生しないように、株元に水をやり過ぎないこと。



5 5 収穫

頂花蕾は全体が十分に発育し、硬くしまった塊のうちに主枝をナイフなどで切り取ります。側花蕾は側枝をハサミで切って収穫します。

頂・側花蕾型の場合、立派な側花蕾を収穫するためには、多少若い頂花蕾を短めに切り取った後、追肥をした方がよいでしょう。

POINT よい側花蕾を取るには追肥を！

追肥は化成肥料を、1株当たり1握り施します。冬になると花蕾が紫色になることがありますが、ゆでると緑色になるので問題ありません。

追肥

追肥